

# 農産FAX情報

第5号

令和元年7月15日

発行：ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

6月後半から日照が少ない日が続きました。引き続き病害虫の発生に注意し、適期防除に努めてください。

## 1 秋まき小麦

生育は順調に進み、平年より早く乳熟期をむかえています。成熟期が早まることが予測されます。生育状況を確認し、適期収穫に備えましょう。

### ① 収穫作業準備

- ・早めの作業準備に努めましょう。コントラ等、集団で作業を行う場合は降雨等の緊急時対応を事前に協議し、周知徹底を図りましょう。

### ② 収穫適期の判定

- ・子実水分30%以下が収穫開始の目安です。
- ・こまめにほ場を観察し、枯れ上がりの早いほ場から刈り取り順序を決定しましょう。

### ③ 収穫作業の留意事項

- ・試し刈りを行い、損傷粒や未脱が無いようコンバインの調整を行いましょ。
- ・倒伏・病害が多発したほ場は、別刈り・部分刈りの対策を行いましょ。

## 2 ばれいしょ

多湿条件が続き、軟腐病の発生が一部で確認されました。今後も気象の変化に注意し、予防的防除に努めましょ。

### ① 軟腐病防除

- ・耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用は避けましょ。
- ・茎葉が過繁茂・倒伏すると多発しやすくなります。初発を見逃さず、防除を徹底ましょ。

### ② 疫病防除

- ・ダブルインターバル薬剤(残効期間が長い薬剤)を活用ましょ。
- ※小麦収穫作業との競合や降雨により、防除を逃すとまん延の危険があります。

## 3 てんさい

### ① 褐斑病防除

- ・高温多湿条件(病原菌の最適気温：25℃程度、湿度85%以上)で多発ましょ。高温多雨の気象経過が予測される場合は、予防的防除を行いましょ。
- ・DMI剤およびカスガマイシン剤の使用回数を可能な限り減らし、耐性菌の発生を抑えましょ。

## 4 豆 類

### ① 菌核病・灰色かび病防除

- ・菌核病は開花期以降の多湿、灰色かび病は、低温多湿で多発します。生育ステージや気象状況に注意し、薬剤散布を行いましょう。  
※1回目の散布は、小豆：開花始から7～10日後、大豆：10～15日後、菜豆：5～7日後に行い、その後は必要に応じて、10日間隔で2～3回行いましょう。
- ・灰色かび病は、チオファネートメチル水和剤、フルアジナム剤、ジカルボキシイミド系剤に対する耐性菌が認められています。適切な薬剤防除を実施しましょう。

< これから本格的に収穫作業が始まります。 >

収穫用機械の点検整備は事前にしっかり行うとともに、作業中は適度な休憩・休息を取り、農作業安全に努めましょう！

**※ 不明な点は JA または普及センターへ  
お問い合わせください。**